

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-104

<b>部門名：</b> 校内研修プログラム 開発・実践部門	<b>エントリー名：</b> 大分市立大在中学校神崎順一 平成 30 年度教職員等中央研修 第 4 回中堅教員研修
<b>活動名：</b> AL を育む授業展開 ～「学びあい」の場の設定の工夫～	
<b>解決すべき課題：</b> 「主体的・対話的で深い学び」の実践をどう進めていくか、様々な研究がなされている。本校でも昨年度学校研究テーマを、「主体的・対話的で深い学びを育む授業展開～学習意欲を高めるアクティブラーニングのすすめ～」とし、「学びあい」を主体とした学校研究をすすめてきた。「学びあい」という対話的な授業スタイルを積極的に取り入れることで、生徒の学習意欲が高まり、「主体的・対話的で深い学び」となると考えた。そのような時、本研修において、岡山大学 教授 高旗 浩志先生の「新しい学びの推進」を受講させていただき、課題の設定や活動の場の保証などのポイントを学び、本校の研修に取り入れていきたいと考えた。	
<b>目標・方針：</b> 「学びあい」の場をどの教員にも求め、生徒が活躍できる授業へ（できる→わかる、教わる→学ぶ） 1 教員間での「学びあい」の場のイメージを共有する。 2 授業研により、授業改善の方向性を教員間で共通理解する。 3 大分県教育委員会が提唱する授業改善・学力向上の取り組みをさらにすすめる。 4 教科部会を活性化することで、授業改善を積極的・組織的にすすめる。	
<b>活動内容：</b> ○単元プランを活用し、生徒同士が関わりながら解決していくための「学びあい」の場の設定と主体的な学びを支える課題づくり。(図1)【目標・方針1】 ○生徒指導の3機能を生かした授業づくり(問題解決的な展開の授業)(図3)【目標・方針1～4】 ○教師向け通信(図2)を利用して、「中学校学力向上3つの提言」(図3)と「新大分スタンダード」(図4)の解説と好事例の紹介。【目標・方針3】 ○教科部会で、全国学力・学習状況調査・大分県学力定着状況調査の結果分析から生徒の実態把握と学力向上のための方策の検討(図5)【目標・方針4】	
<b>活動の成果：</b> 1：生徒へのアンケート【4段階評価】より、肯定的な解答の割合(H29年度とR1年度の比較) ○「授業中のペア活動や班での話し合い活動には、楽しく取り組んでいますか。」84%から90%に。 ○「学校の授業は、よく分かり、楽しいですか。」76%から85%に。 2：教員へのアンケート【4段階評価】より、肯定的な解答の割合(H29年度とR1年度の比較) ○「毎時間、「めあて」「課題」「まとめ」を提示して、授業に取り組んでいますか。」84%から93%に。 ○「授業にペア学習や班学習を取り入れ、コミュニケーション能力の向上に向けて工夫した取り組みを行っていますか。」87%から93%に。 ○「生徒指導の3機能を意識した授業を行っていますか。」87%から93%に。	
<b>アピールポイント(アイデアや工夫)：</b> ○教科部会や互見授業を積極的に行うことで、教員の意識改革がすすみ、授業改善へ生かすことができた。 ○「学びあい」の場を単元に位置付けることで、生徒の授業に取り組む意欲が高まってきた。 ○「学びあい」の場を積極的に取り入れることで、立場の異なる意見を積極的に聞こうとする生徒の姿が見られるようになった。 ○教科部会など教員の組織的な取り組みにより、学力が県平均をこえる教科が見られ始めた。	

<写真、図表添付欄>

図 1



図 2

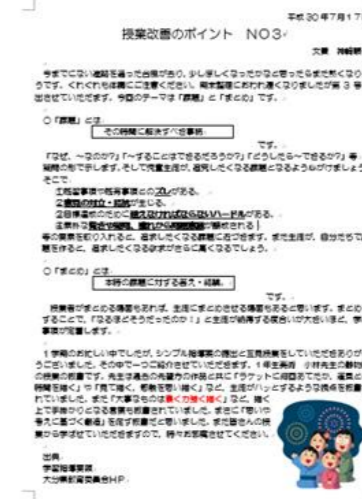


図 3

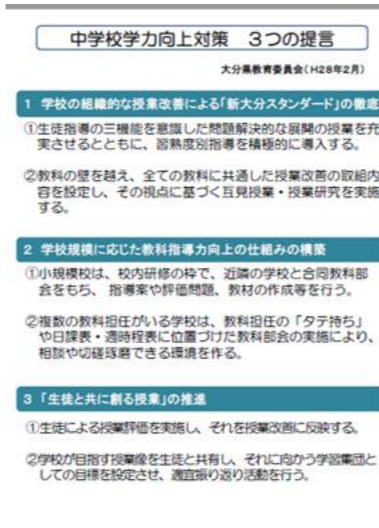


図 4

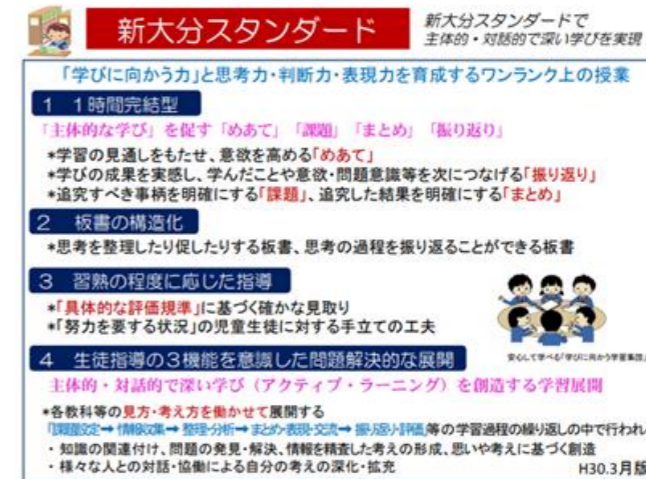


図 5

